

## 花粉症用薬における処方動向分析

花粉症用薬の剤型の違いによる処方動向の差を分析し、流行のピーク時に内服薬と点眼・点鼻薬の併用が増加する様子を可視化しました。

日本調剤グループで情報提供・コンサルティング事業を行う株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：橋爪 敦弘、以下：日本医薬総合研究所）は、独自に運用する「月次処方データサービス RI-CORE」をもとに、医薬品市場の処方傾向変化を分析してまいりました。今回は花粉症用薬についての処方動向分析を行いましたのでお知らせいたします。

使用データ：月次処方データサービス RI-CORE

対象期間：2019年7月～2024年6月

※本レポート内では、7月から翌年6月までを同一シーズンと定義します。

対象店舗：対象期間以前に開局し、期間内に閉局していない日本調剤の薬局

対象疾患：花粉症

※通年性アレルギーの患者を除外するため、各シーズンにおいて7月から10月に対象薬剤が処方されたことがある患者は対象外としています。

対象薬剤：下表参照

剤型	対象薬剤（成分名）
内服	エバスチン、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、セチリジン塩酸塩、デスロラタジン、ピラスチン、フェキソフェナジン塩酸塩、フェキソフェナジン塩酸塩・塩酸プソイドエフェドリン、ベポタスチンベシル酸塩、ルパタジンフマル酸塩、レボセチリジン塩酸塩、ロラタジン
点眼	アシタザノラスト水和物、イブジラスト、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、クロモグリク酸ナトリウム、ケトチフェンフマル酸塩、デキサメタゾンメタスルホ安息香酸エステルナトリウム、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム、トラニラスト、フルオロメトロン、ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム、ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム・フラジオマイシン硫酸塩、ペミロラストカリウム、レボカバステチン塩酸塩
点鼻	クロモグリク酸ナトリウム、ケトチフェンフマル酸塩、デキサメタゾンシベシル酸エステル、トラマゾリン塩酸塩、フルチカゾンフランカルボン酸エステル、フルチカゾンプロピオン酸エステル、ベクロメタゾンプロピオン酸エステル、モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物、レボカバステチン塩酸塩、塩酸テトラヒドロゾリン・プレドニゾン

## 1. 花粉症用薬 患者数の推移

対象薬剤を処方された患者数の推移を Fig. 1 に示します。例年 3 月に患者数がピークを迎えますが、2023/24 シーズンは過去と比較して早い時期から患者数が増加する傾向が見られました。また、2022/23 シーズンはピーク時患者数が前年比 1.3 倍に増えており、2023/24 シーズンはやや減少したものの 2021/22 シーズン以前より多いピーク時患者数でした。

対象薬剤を処方された花粉症患者について、薬剤の剤型別に患者数の変化率を見ると、ピーク時には点眼・点鼻を処方される患者数が大きく増加する様子が見られました (Fig. 2)。2023/24 シーズンのピーク時においては、内服の変化率が 270% であるのに対して、点眼 457%、点鼻 437% にそれぞれ増加しています。花粉が飛散する前から初期療法として使用されることのある内服と、症状に合わせて使用されることの多い点眼・点鼻の違いがあると考えられます。

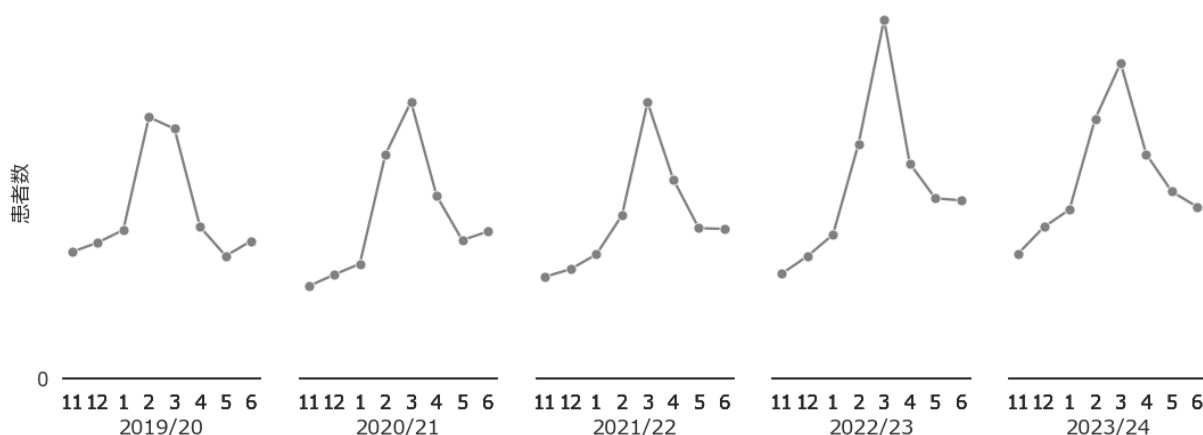


Fig. 1 花粉症用薬（すべての剤型）を処方された患者数の推移

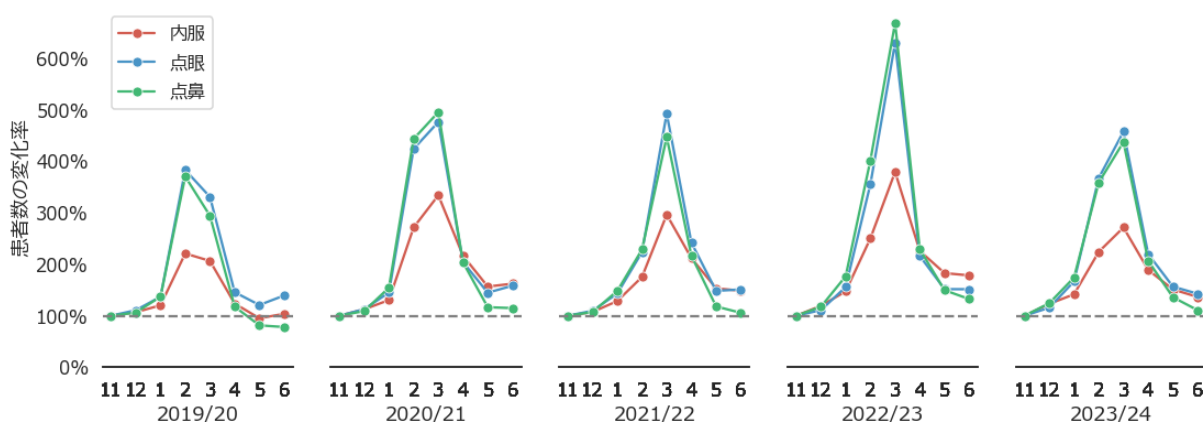


Fig. 2 剤型別の患者数の変化率の推移 (11月=100%)

## 2. 花粉症用薬の剤型ごとの併用状況

続いて、花粉症用薬の剤型ごとの併用状況の分析を行いました。内服・点眼・点鼻の併用の組み合わせごとに該当する患者数を月別に集計し、結果を Fig. 3 に示します。

3月前後のピーク時において、Fig. 2 では点眼・点鼻の割合が増加する様子が見られましたが、こちらの分析結果から点眼・点鼻を処方された患者の多くが内服と併用して処方されていることが分かります。一方、ピーク外の時期においては、内服と点眼の併用はほとんど見られず、単独での処方が全体の9割を占める結果となりました。

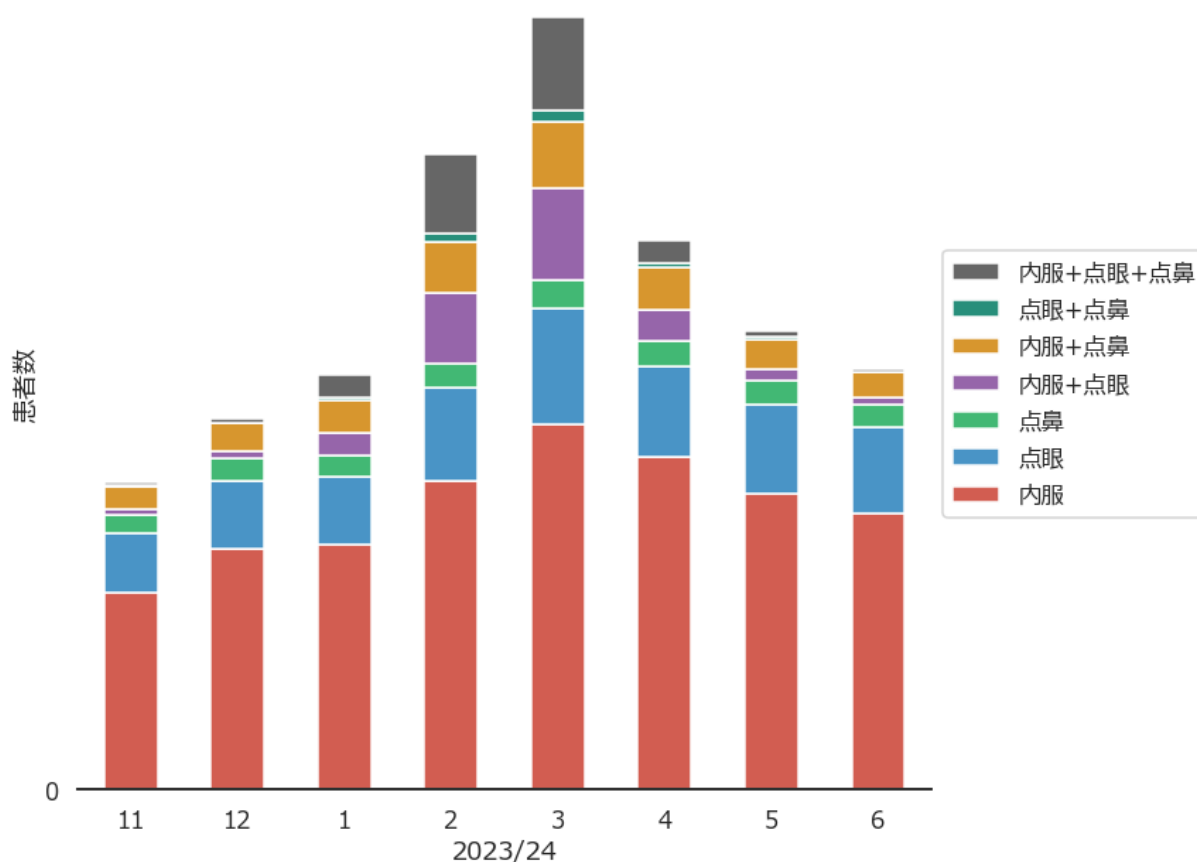


Fig. 3 花粉症用薬の剤型ごとの併用状況 (2023/24 シーズン)

今回、当社独自の月次処方データサービス RI-CORE を用いて花粉症用薬の処方動向分析を行い、その一例を紹介しました。日本医薬総合研究所では今後も、さまざまな薬効群の処方動向について分析を行い、発信してまいります。

**【RI-CORE について】** [https://www.jpmedri.co.jp/service/medical\\_information/ri-core/](https://www.jpmedri.co.jp/service/medical_information/ri-core/)  
日々収集される調剤情報を月次または週次で集計する情報サービスです。お客さまのニーズに応じてカスタマイズした多彩なテンプレートを作成し、自在な分析機能により目的に合わせた分析結果を定期的にお届けしています。

**【株式会社日本医薬総合研究所について】** <https://www.jpmedri.co.jp/>  
日本調剤グループ各社を通じて培った医療情報資源を基に、医薬業界の健全なる発展、成長に寄与し、国民生活の向上に資する価値ある情報サービスを提供するために 2012 年 1 月に発足しました。製薬・ヘルスケア企業、医療機関・保険者さま・保険薬局からのさまざまなニーズに応えるため、処方箋情報・レセプト情報をはじめとする各種医療ビッグデータを基盤に、「医療の質の向上」、「医療費の適正化」、「国民の健康寿命の延伸」といった日本全体の医療課題に貢献してまいります。

**【日本調剤グループについて】** <https://www.nicho.co.jp/brand/>  
日本調剤グループは、すべての人の「生きる」に向き合う、という揺るぎない使命のもと、調剤薬局事業を中核に、医薬品製造販売事業、医療従事者派遣・紹介事業、情報提供・コンサルティング事業を展開する、多様な医療プロフェッショナルを擁したヘルスケアグループです。医療を軸とした事業アプローチによる社会課題解決を通じて持続可能性を追求し、すべての人の「生きる」に貢献してまいります。

#### **【本レポートに関するお問い合わせ先】**

株式会社日本医薬総合研究所

TEL : 03-6810-0812 FAX : 03-5288-8692

E-mail : [soken-info@jpmedri.co.jp](mailto:soken-info@jpmedri.co.jp)

本レポートに関わる無断での引用、転載及び複製は禁止します。

当社は、本レポートの内容および閲覧者が本レポートを通じて得る情報等について、その正確性、完全性、網羅性、有用性、最新性、適切性等、その内容について何ら法的保証をするものではありません。

本レポートの閲覧者による、これらの情報の利用により、万一何らかの損害や不利益等が生じても、当社は一切の責任を負いません。